

第2部 保存計画

第1章 保存計画の理念と方針

第1節 基本理念

江戸時代から明治、大正、昭和の初めにかけて、日本国内では米の生産を中心とした農村振興が進められた。米の生産増強にこだわり続けてきた日本人の米づくりに対するこの思いを近代的な農業資産として今に伝えるのが坂元棚田である。本計画では、先人の築いてきた農業資産をその思いとともに未来へつないでいくことを目的に、多くの人との関わりを求め、その過程において坂元棚田の文化的景観を保ち続ける集落維持の道筋を考えて行く。本計画の推進にあたっては、目に映る景観だけではなく、様々な人々とのつながりの中で集落を維持していく仕組みを築き上げ、坂元集落に生きる人々が代々受け継いできた地域の誇りを後世に引き継いでいくことを基本理念とする。

第2節 課題と基本方針

保存計画の策定にあたり、坂元棚田の文化的景観の特質を未来へと引き継ぐため、下記の点について今後の対応すべき課題を整理し、保存活用のための取り組みの方針とする。

(1) 生産の場としての棚田の維持

棚田での営農を維持していくことが、今後の棚田の景観を維持することにつながる。これまでの営農や生活のしくみを継承しつつ、時代の変化に応じた生業のあり方を考えて行く必要がある。

→ 水田耕作を維持するための生産環境の保全に努める。

(2) 生活文化の継承

集落の過疎化・高齢化、現代社会における産業構造の変化等により、生業のあり方が大きく変化し、これまで生業を通して受け継がれてきた知識や経験が途絶えようとしている。これらをこれからの世代に何らかの形で伝え残していくためには、営農の維持と地域の振興、伝統文化や技術の継承、地域資源としての坂元棚田の活用を通じて文化的景観の保存を図ることが大切である。今後、地区内外における様々な取り組みを他地域との人的交流の視点から検討する必要がある。

→ 営農を支えてきた集落の知恵を地域外の人々との交流に活用しながら、集落の生業に関わる生活文化の継承を図る。

(3) 棚田を中心とする周辺環境の一体的な保護

坂元棚田の景観は、棚田と集落、そしてこれらを取り巻く山々と地区の人々の生活文化が一体となって文化的景としての価値を持つものである。景観阻害要因の改善や破損等に対する措置等について、景観維持のための考え方を明示する必要がある。

→ 棚田景観維持のための修景・修復及び現状変更・開発行為等について、文化的景観の保存に配慮した行為制限の基準を設定し誘導に努める。

(4) 酒谷地域全体の活性化

坂元棚田の文化的景観は、坂元地区に住む人々だけで守りきれものではない。坂元棚田は酒谷地域を代表する文化的景観の一つである。「酒谷の坂元棚田」の文化的景観を酒谷地域の活性化につなげる新たな取り組みを持続していく体制の整備と人材の育成が必要である。

→ 坂元棚田を中心とする文化的景観を酒谷地域共有の財産とする立場から、酒谷地域の各地区と連携した新たな活用のあり方を検討し、酒谷地域の活性化を持続させる体制を築く。